

シンポジウム

アーティスト・イン・レジデンス

九州AIR再考

パンデミックによってさまざまな境界が障壁となり、私たちの行動を強く制限した社会がふたたび動きはじめています。アーティスト・イン・レジデンス事業(AIR)において、アーティストたちがいつもと違う場所で滞在制作し、その地域の人々や自然や物語を織り込みながら作品を生み出すプロセスやその意味合いも、以前にましてより切実なものになってはいないでしょうか。

この度は、福岡および九州各地で特色のあるAIR活動を展開しているパネリストをお招きし、その活動の意義やアーティストへの制作支援、将来のステップアップ、地域社会やアーティスト同士のネットワーク作りなど、AIR特有の課題や今後の可能性について共有とディスカッションを重ねます。

2023.3.11 ^{SAT} ± 13:30-16:30



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

福岡アジア美術館 あじびホール(8階)

定員80名・入場無料(事前申込不要)

13:30 - 各パネリストによる情報提供

14:30 - ディスカッション

16:00 - 情報交換会

パネリスト

※順不同、敬称略

徳永幸治 (MEIJIKAN代表、筑後市)

楠本智郎 (つなぎ美術館 主幹・学芸員、熊本県津奈木町)

家入健生 (NPO法人 BEPPU PROJECT、プロジェクト・マネージャー、別府市)

中尾智路 (福岡アジア美術館 学芸員、福岡市)

司会

宮本初音 (福岡アジア美術館 AIR事業コーディネーター、福岡市)

主催・企画協力

主催：福岡アジア美術館 企画協力：Team Aperto